

BEST AVAILABLE COPY

⑫ 公開特許公報 (A)

昭60-223441

⑬ Int. Cl.

H 02 J 7/00

識別記号

庁内整理番号

H-8123-5G

⑭ 公開 昭和60年(1985)11月7日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

⑮ 発明の名称 一次電池と二次電池併用の電源装置

⑯ 特 願 昭59-77880

⑰ 出 願 昭59(1984)4月18日

⑱ 発 明 者 市 川 雅 英 東京都墨田区本所1丁目13番11号

⑲ 発 明 人 市 川 雅 英 東京都墨田区本所1丁目13番11号

BEST AVAILABLE COPY

① 要 約

② 発 明 の 概 要

一次電池と二次電池併用の電源装置

③ 発 明 の 詳 細 な 説 明

④ 発 明 の 効 果

⑤ 発 明 の 実 施 例

⑥ 発 明 の 特 徴

⑦ 発 明 の 利 益

⑧ 発 明 の 説 明

⑨ 発 明 の 説 明

⑩ 発 明 の 説 明

⑪ 発 明 の 説 明

⑫ 発 明 の 説 明

⑬ 発 明 の 説 明

⑭ 発 明 の 説 明

⑮ 発 明 の 説 明

⑯ 発 明 の 説 明

⑰ 発 明 の 説 明

⑱ 発 明 の 説 明

⑲ 発 明 の 説 明

使用したのである。

第三図は本発明を示した図で、一次電池の発電エネルギーを逆流防止ダイオードを通して二次電池に充電をし、それを負荷に放電用として流用したのである。

今回の実施例に用いた一次電池は、無性電解液使用のアルミ触媒材電池である。(一次電池としては一般的に次のようなものが知られている。)(1)亜鉛塩酸空気電池2アルミ塩酸空気電池3銅材電池4一次電池の乾電池等。)

この一次電池の構成は、触媒材にアルミニウム板を使用し、触媒材にはカーボン板を使用した、電解液には希酸と塩酸を混合し、それ等を水に薄の使用したのである。起電圧は1セルより1.35Vであるから、これを直列に接続し高電圧を得てカドニウム電池や鉛蓄電池等の二次電池に電気エネルギーを充電し、放電しながら使用したのである。

このように一次電池と二次電池を併用して使用するならば、負荷に対して非常に安定した電気エネルギーを流すことができる。

これ等充電された電気エネルギー源を次のような電気器具に使用すれば最大の作用効果が得られる。

例えば、移動機器や固定機器で具体例としてラジオ・関係・チャージングカー・関係、屋外広告関係、照明関係、海中通上性

